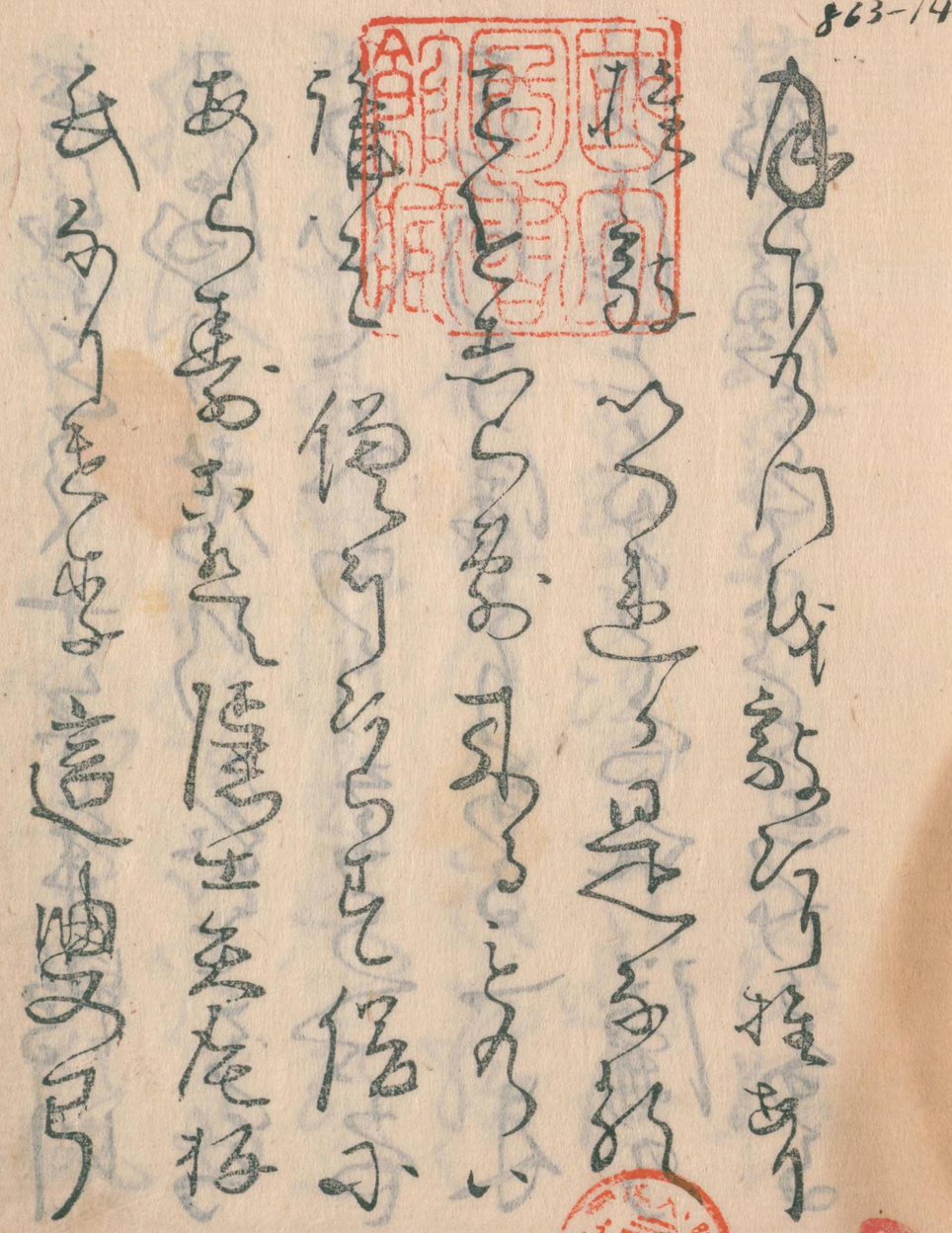
863
147イ

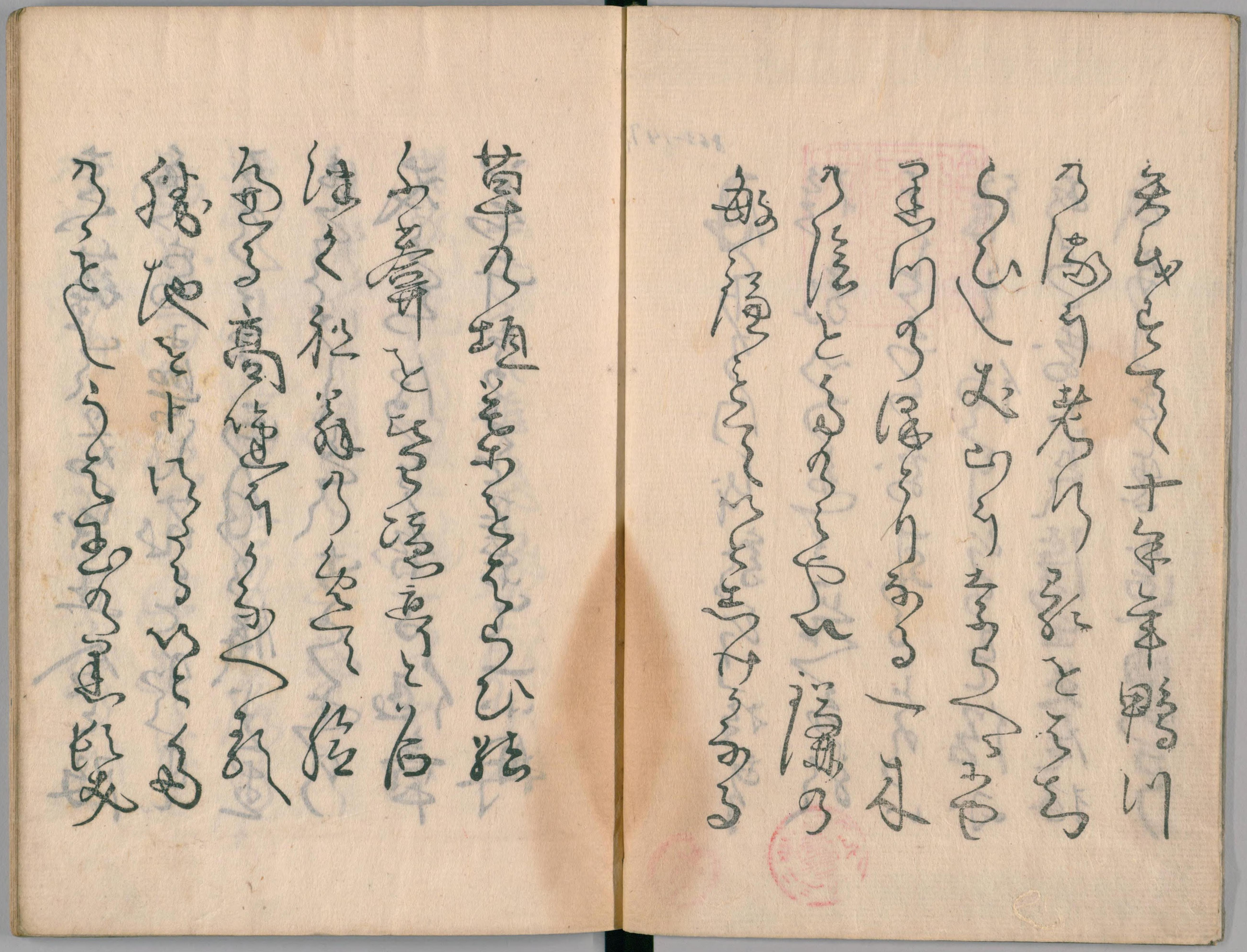
あみたかさ

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』 請求記号 863-147イ
ガラス使用

863-147イ



国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ
ガラス使用

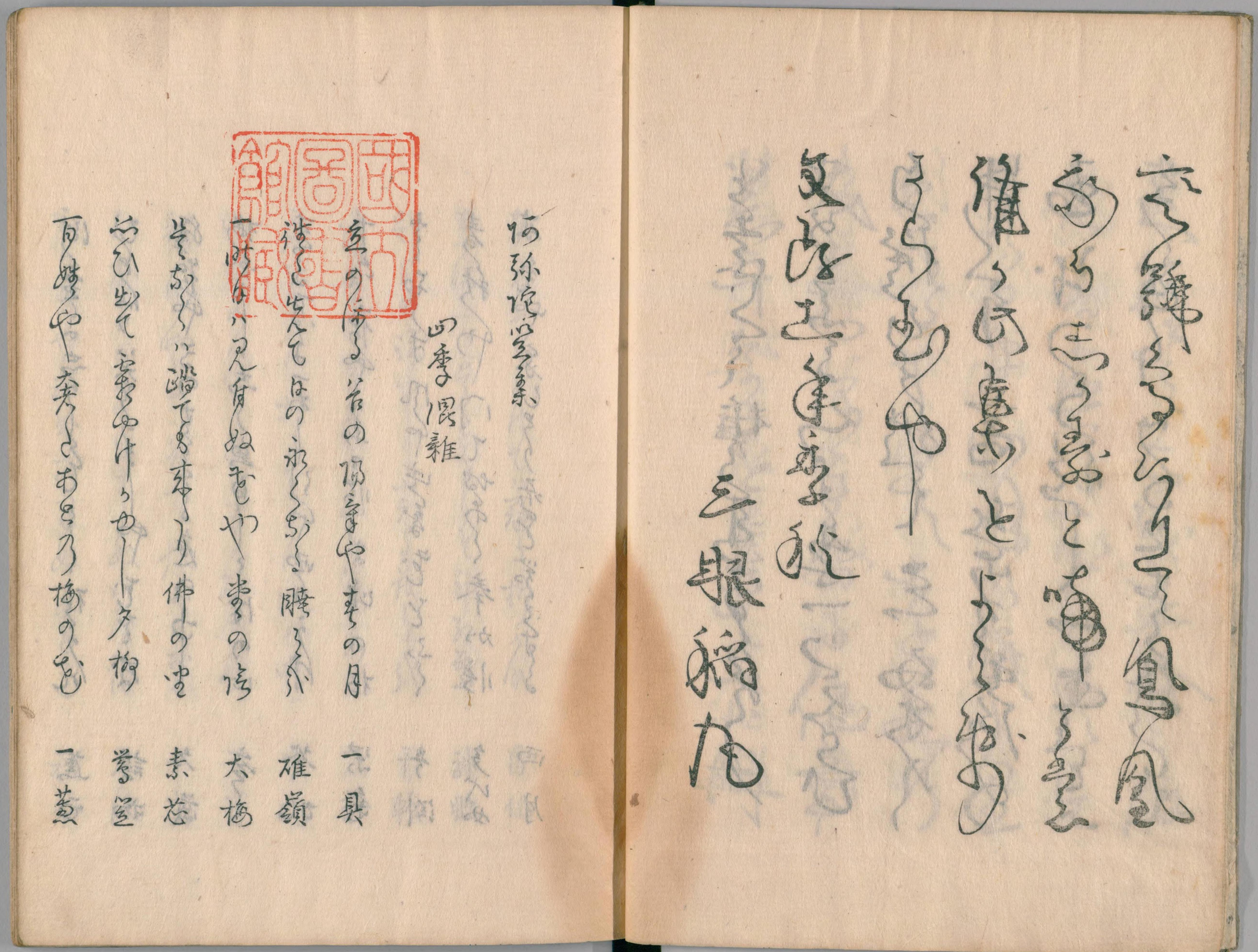


国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ

ガラス使用

蕉雨

護物

久蔵

梅雪

奏九

宗翁

亭渕

多代女

西月

昌化

訓勝

千軒

一茶

宇橋

一肖

千崖

阜代

秋峯

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ

ガラス使用

以もゆる春よりも愛すべき小
ゐはさてなの夢よりは秋の面　一具
ゆゝしうよ秋八月よりは夢の孔　二丘
四神を金石ゆゝ蔵梅花　太節
るおりてゝもゝいりは蕗の色　雪丸
きの秋やゆゝしてゝ約地の蝋　蕉雨
大きもしよのほきこゝるゝ家の女　亀の女
田よつきて山杉のれゝも蔵よりは　昌化
梳ふをて稲刈よりる色よ氏　雪山

天の代の形れとそや姫別ずく　一甄
なゝ夢て大てゝよ弟ぬゝふの月　砧巖
ほゝきはかし一森ゝ部ゝ　田人
菊つむ四系角のをけゝれ　只秋
月も秋よ弟しゝ夕やゝ家ちつる　久蔵
地獄の干あゝるなゝ家ゝ家の家　庵
萩四ゝふるよゝの家ある月の地　漢物
大きよあゝるゝゝへゝゝの月　大柿
ゆゝるゝよゝきゝう秋ゝる紙よは　一見

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ
ガラス使用

杉山や尾花の秋乃あるまうら　梅令
下京いまと惜るや渡る　多あ
風吹よ めの出てうつもうえ　百美
杖一言のうれる躰の芭蕉ふ　石猿
望月や没人のなぶめるもし　一董
海乃月つる一株の芒より　涼谷
見まるや箒よ捨て行人の新　江山
如意宝一夜の風よ意こる　一茶
白雲や素ハ鶏頭もおもるよ　仏朔

老の寿ゐの寿杉ハ柿白一　若久
住ふかさり樂や紀人町　一具
杉の木もつる蒙するるや子規　亀九
伝渡よあれハ鉄なよ俗しの川　太郎
一約鞦なけて涼ふりまるれ　其芝
山ふくるて海苔の音の墻ひ　素芝
学ひ一世ひらするたるうの　亀夜
見亀一よ立の柿や麦の中　多あ
ちう秋や猿をまくれハ寿の沢　卓堂

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ
ガラス使用

入梅時や えのもとの 佃堂　雪柳
柳陰や 仏壇町の一檀那　一色
杉板乃 赤よりて 夢うれし　井眉
ほうもう 回一 百もる 牛の夢　亀列
まうりや 秋さる 三て 夢をば　一茶
七夕や ひとせ 会ふきの ふるふ　西塊
涼やん 唐望を おもよさの 暑　廉川
なりけの いとる 芋ある 芋ボ　仙迪
あさやよ 来るも 四月 ろなれ　湖中

七夕よ 見ぬ ふりぬ 后町　石海
紫山の 雲 なのあり 山の 雲　芝良
元会の 茶もちよ 三月 れ　一肖
ふりと 唄て 休むや 杜若　日人
稲妻や 一 三 寺る 海士の 犬　茂雄
雪 きの 神 れ ちる 橋 れ　休山
屋 杉て 涼も おもの 雪柳 ボ　清如
庵 ちよ 涼つ 色 月 奥雪 変　ゆかり
玉 季の 蛙 よりて 志 蕪刈 玉 手　雪金

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』 請求記号 863-147イ
ガラス使用

秋風や清ふ春よ城る色の髪　楓二
志をしくと面い降之佛生香　千猪
清つえて寺と一ねや杜の　阜池
色ね春乃彩の色らぬ時る風　一蓋
春色の霧かくぬる和色し　雑嵐
形うけて大臣ふ迎の梅の色　十丈
使寺の冥へ牡丹一ん恵りり　稲舟
蔵身て祈出しやや鉢多よ　梅村
つ以くと森清るる冥うる　黙巣

る梅よ多けハ体しよ坊をる　仰木め
茶恵侍ふくと色る冥ふ南　一茶
面のは共光地を梅牡丹弐　駒花
雪の吹色うくぬあさねうる　大梅
原什桶よ濤の梅茂よりり　阜巣
うめ咲さくて色お彩弐　め仙
めくも形よ影冥て濤うき　雑嵐
頃絨よあと咲や梅の冥る　ことめ
白鷺よの多や彩りて　和節

古隙と苔よりもなほ牡丹の花　蕎麦
灯ともせば塀の外なる柏の木　昌化
門前の銀杏もうれかるるおうな　蕉雨
古戦場や寒い夢さめ抜くとき　井眉
小春日や小春日和一日流れ　友流
次郎よ豆腐のちきるる音　守光
うんこ臭の夢や月見の菓子の高菓　石線
あり丈の風の見ゆるや貸小神　伯支
とろ庵の新しき所やふめる　啓山

発句　鶴と先人
ふるの歳ふるふ時のよ入りし
杉本の親ろろ　しされて
ゑ笑ろ出て笑ろ　ろはあよ
見れ月ろ出ろ　ハも別ろ
ゆ夜よ出ろ　ろるおろと
ゆろろ出ろ　利ろ一ゆろ

梅ものとろろ　正今
雑さろ寒い多ろ　不枝

消えぬる焼出して　令
山もかすかなるの門おく月　枝
めでたしと雲より清る雲霧　令
刈穂は春ひいたる松ふるの　枝
花柄をて十六七のもれたるを　令
もちて捨しうみをとるる　枝
今いくの我身の柄の悪尤　令
指佛の業ふするの子　枝
もしくは稲田のもの先ぶう　令

陸のつるくの松の松ふり　枝
は辺をきの出ても月の芋　令
軍あけく九穂の松風　枝
お宮ばを名をもてる猪色し　令
小モの小橋の岸なるる　枝
ひとの春の雲春ふるもの　〃
のとるのの松ふ　令
出成ぬきんよつをあ松をを　枝
ふるうえのつき川流　令

陸のくし時の大敵のゆゑあり　枝
ちくちくと初面かゝる　令
その枝のすんなりと育ちたる　枝
その雛むすひも伸るよ柳　令
ふくらむ乳ひの多色山　枝
藤色の枝ゆんさし取て　令
ゆるとのしなんよ月うんうと　枝
なかの節しきりの揚合　令
裏表者そきも生きて夏の夢　枝

八文川よりの蔵り　令
陽息ハ治利ちくるものやん　枝
ちくるをいふるるよるのもの本　令
井のもとの近て蓋をとりて　枝
蓋よおのよ苗ものを　令
うんみりと引ふせるもの　枝
巣ちくれしよ蓋の夢　筆

○

外の杉をさらさらとふきうつす秋の立　素雲

八朔の秋四方の山影この市　石彫

ゆる九月の水田を見る小春哉　素暁

山路や菊の香なつかしき茶屋迄　泉雅

市中は花の雲とあり夕より　時雨

るつゆ〳〵所々風の薄うれ　うんめ

ぬるや　撫子さふ咲の新　湖柱

なの雲のうゝ所々のつゆさえ　菊お

きを思ふなれうゝ柿ふ紅葉　仰〻

木のゆゝしき風の音　杉の実　頑嬉

ゆる九月の桜ふ多毋や紅葉の風　松宇

萩よ秀〻ものゝてゆるゝなれ哉　泉童

穂芒の白ふうえ夕暮うえ市　方右

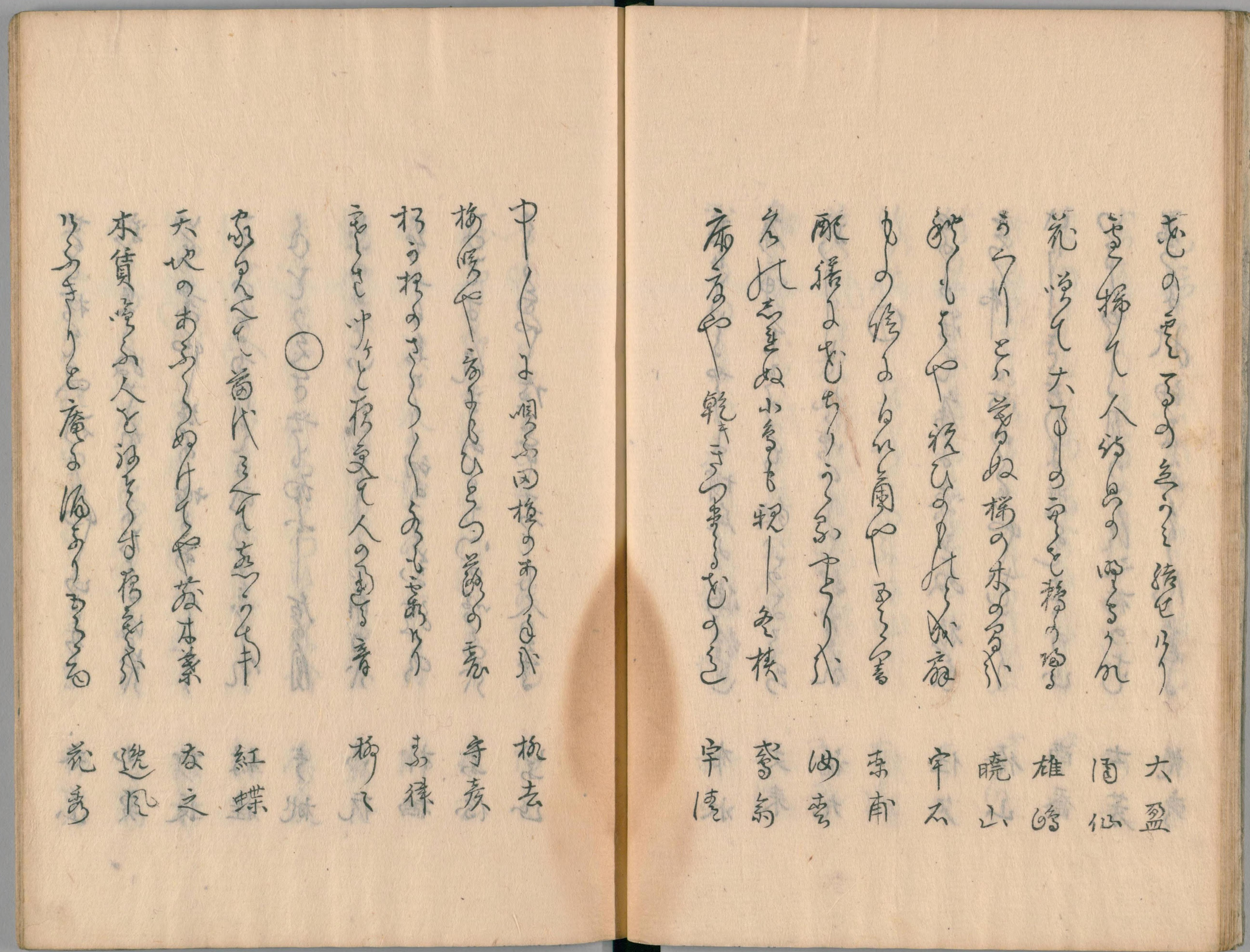
椎実や一つ〻高き小寺の前　和丈

市中は禅寺あゝて立の月　以文

高〻菊の香ゆを移す菊菊　三園

月の菊九月を長ふ胡蝶哉　二山

見侍らのなハあり枯花　梅宇
宮陸の雲ゐの月とゝ清り　柿之
まつり　や　柿の連の夏ものの　女ら
きのふまつ見もまちあれあはるふ　女ゝ
秋の雪　家能為　よ　是　ゆ　ゝ　ゝ　ゝ



大盈　桃去
酒仙　寺麦
雄鳴　赤律
暁山　柳下
宇石
東南
湖雲
奮翁
宇陸

中しらよ明るゆ四枝のあるゆ
梅咲や　寺麦の義の麦
打う打のさしらしらあるり
赤律
ゆ　ゆ　ゆ　

世を捨て又捨てやまさかの
乳の色〜ぬるれしよりたるる清水
いつの春やの旅の城のあるかりす
ふるさとの名ける日ぬの本をうれ
ふとうるさ世も面ふ一度の月
糸のはといりしまるて角力
まそ十日ぬりの河の又義経の
子をまうんまるもいの時の衆
そうるやの信濃も人の来る

太山
小奥
竹長
鎌桂
寺桃
京坑
朴栖
京原
岩山

ものの一の切るひ出し一藤の花
鉢の伊幸町りけ切りり
相井一つも人の塔やの壁の月
清水一月の富る巻巻
巻を稲や佛巻ひと藤今
いるも又の砂をるやさみるる
義れのるつ巻清水る
ものるや庵の二稲の切
打菊巻稲るるし巻する

陽六
桜山
鉢心
菊風
鹿水
線来
鉢枝
春素
柳光

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』 請求記号 863-147イ
ガラス使用

秋の月　灯
みしらぬ前のあやめ　伊光
古里や　芝垣めぐる河原　河梁
門い樹いい井面よりの雨　隆春
高い菜の言のもとに　荒壽
猫人の笑顔　はるの楽　其之
悟りて孫をつゆのこの　紫牛
春の雪　雪祥の伊をおもう　貝谷
父母の墓　墓の日　東義

医者の結ぶ　春の雪　紫之
清春の鶴　鶴の東　もとう
上州の　お撰　老　桃祝
打飛いつこの　りて　次平
蕎麦　蕎麦の　この南　遠石
蕎麦　蕎麦の　この南　伊高
硯　一息つき　硯　桃兮
梅　梅の　梅　弼光
百二日　雲の　傳　不秋

○

雨こゝ所なき雲のゆくへ月
[illegible]の芝の繁ほゝ色あれて[illegible]
[illegible]月[illegible]水鶏[illegible]
月きよ明と[illegible]川[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

玉英
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

接を梅よりけりおとさ　山水
有明の月よ浮ゐ　梅里
鶯うけよ四すゐ　東翠
小雪ふる淵の畑　東角
さゝゝとむのうけ　秋垓
川風の花ゐ野　新家
古里の沸のはり　鶏笑
吹接の面ゐ　紫久
梅咲ゐ春日ゐ　方宗

梅ゐ春よ小路ちぬけ　文里
旅帰ゐ　茨の白ふ　二角
うゐはよあゐ笠ぬゐ　一南
ひゝゝと春ハ野よ　英尤
移室所の垣梅よ　雀夕
鼓ゐ月ゐ紙の屋ゐ　其山
十日ゐ春ゐ室の裏ゐ　斧周
猪部ゐ通ふ野風　雄男
梅よ九時ゐ塩筍ゐ　夕比

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ
ガラス使用

春雨柳の見せもの風にあらう　乙蝶
あるのうよりうるおふの姿やうれん　乙負
紙屋の油はしをあるもあるかな　呂竹
蔵屋敷　猫よりは鉢のうらく宿　妙先
きあるゝ　雪也　松めの病を上り　金丸
猫書の洗ひ風呂　雪杉うち中　涼し
鳴るへかる　梁もうれん　嵐ふ　杉丸
八翔　小さきうるの新朗　如涼
四月の大根　馬車　もるの内美うれん　志葉

月の宿四五新　中もとりうり　亀臨
あるうゝ八四中の月也十三根　古墨
晴ゝ　さの　あり小き杉家ふ　暁也

○

四の屋ゝのうけもあるゝ　鴨の家　莫水
空ふうゝの世も淋るむく浮来ふ　寓丈
猫つむや　宮のあのゝ　橋のうへ　伯川
竹つゝよ　咲　四雪の柿の　雄涼
小戸をの掃ふもあふ屋ふの寺　五井

人音の絶てしづかなる
夢あけて市をとへば若の浦
見はるかす市はうら霧すてゝ
八月の猶なほすゝ〳〵光景
鶴ヶ岡もうら霧也雲しぐれ
十三夜　芝をあゝすゝ小雨
梅ヶ谷は作業志ゝる紅葉
社家町の紅葉の上也　花の紅
小雪のぬくもる雪の白ひろ

休庵
光石
栃尾
風岱
玉山
石竹
鬼竹
甫石
秋ヶ

京まる清のうゝの紅葉
今まゝる芝ゝ作業の境
山里はとうかゝ京ゝ雪の光
雪ゝ水をうけてうゝの枝ゝ
白雪ゝ見るつま雪暗小屋
雨の音をうとうすゝ清水風
雪をもて雪ゝ雪ゝの花雪
信長公の紅葉見ぬ前の月

太曉
英亭
木弓
竹英
民蝶
雀堂
玄子
太橋

蘭の市　汁六
尺高
雲如
皆及
唐恒
暁陂
民丈
葛嶺
如月

雨竹
波童
巴江
蕪丈
梅園
湖堂
家九
桃二
蕪山

湖を奏もたりて春すゝぶる
すゝぶるやそもしくとなる雁の脛
ふゝらつるさゝみと藤のもる紙
鶏みをあゝしもり祝すゝ発
梅や窟きゝひの茅て小鍋焼
末うゝしる鳴えさゝ懐帛
かきりある浦のりあも
のつゝりと牛をねせゝりまの山
ほゝの月森沢といふゝりり

[illegible]　　挾良
大[illegible]を[illegible]掃除して[illegible]の月　　柄甫
花櫻のちる[illegible]へぬふり　　李笋
うすむらを[illegible]とる小[illegible]　　武乙
水の城[illegible]の月　　千甫
来る人もなくて[illegible]　　六朗
枕ふかし[illegible]の月　　桃城
[illegible]の[illegible]　　二涌
[illegible]書や小[illegible]あの中　　作岸

[illegible]人も[illegible]　　中年太郎九
[illegible]の[illegible]　　涼波
[illegible]杉の柄より切る　　宇喬

○

雨の月氷の上よりおぼろ　　滿英
[illegible]柄よりけ[illegible]　　東冬
[illegible]の中もなぬま[illegible]の浮　　如渊
[illegible]風や[illegible]れよりちる[illegible]人　　麦阜
月明の[illegible]山をうつ[illegible]　　白也

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』 請求記号 863-147イ
ガラス使用

[illegible]　如意
川[illegible]の[illegible]　宮帆
松[illegible]の木蔭より[illegible]を[illegible]　妙木
[illegible]水の[illegible]　下に
七[illegible]の[illegible]と[illegible]　雁有
[illegible]の風の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　和水
清風より[illegible]　李廊
[illegible]の[illegible]　宮水

川風より[illegible]の[illegible]　古原
[illegible]の[illegible]　玉英
清[illegible]の中[illegible]　壮山
[illegible]の[illegible]　東望
[illegible]　玉之

○

[illegible]頃より[illegible]の月　圭翁
[illegible]と[illegible]の[illegible]　川條
大[illegible]より小[illegible]を[illegible]　白應

[illegible]　芦兄
[illegible]　夢之
[illegible]　樗丘
[illegible]　桃民
[illegible]　杉月
[illegible]　秋巴
[illegible]　桐葉
[illegible]　天朗
[illegible]　亀洲

[illegible]　玄川
[illegible]　鷲青
[illegible]　磯華
[illegible]　関秋

[illegible]　正令
[illegible]　杉徑

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ
ガラス使用

皆涼亭

書よある屋そとよけも寒の月　関秋

ゐるも除ゑの鄰すゝ峰　正令

昌部ゆるうんとの白ひおさゝも　杉径

うけて酒のゆ竹筒こゝ　鶯青

涼しさに月ゆ人の立ひ　川條

屋ゑも五日ゝ　桐泉

夕枕みむすふ美さん沖淋し　蕪之

遠ゆゝゝのゝ蓑笠　樗立

清ゝゝ清ゝ清ゝ清ゝ秋風　秋巴

淋ゝの陰ゑゝゝ草　桃民

月の白浪のゝゝ陰ゝ　杉月

屋よゝゝ月根郎伊乃　白魚

ゝゝゝと雷ゝゝ風の邪　磯薄

水と陰ゝゝゝゝ振ゝ杉　玄川

蟬撫もおもひあゝゝ　亀臥

梓の葉のゝゝ杉　天朗

ゝゝ音さゝゝ月　圭高

もの喰ふ添もあるぬるを　芦見

右一枝

猶のこるよ見も苔あり草の色　猫丸

大君のおほ月よりけ中も蔦　柳し

書の日のこらつくしも歳もる　不村

すくれあむ人のこらもおもある　之仙

冬の像を吟さらやゝ寒の風　廻雲

枯風よ吟を色やゝ淋り梅　松任

あるとの吉か柳の天氣うす　曉也

陰人のむく悲よつく変るれ　古翠

変稿やゝまると見るるのある暦　太楊

命のむや山下所の水てを　牢喬

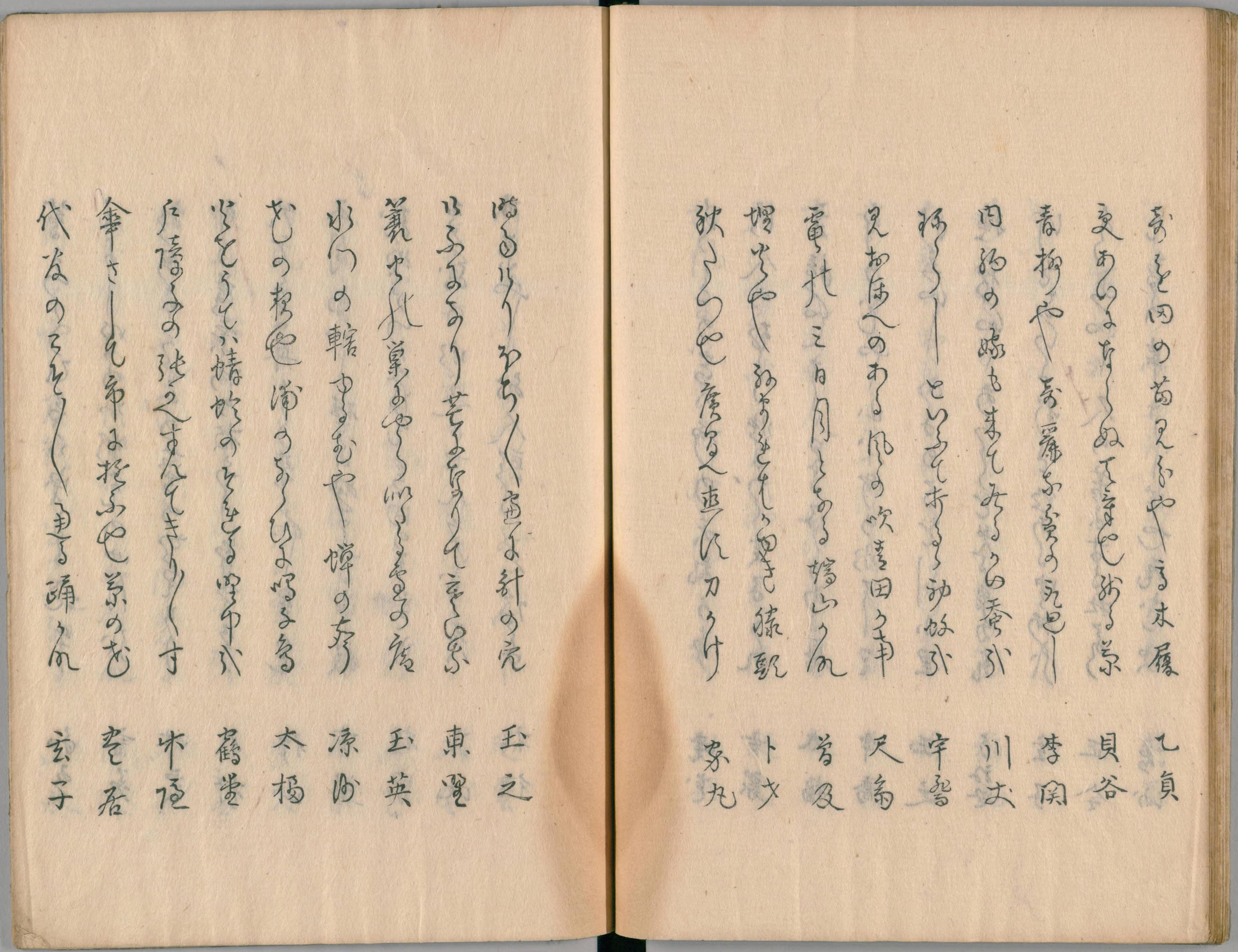
秋高やゝ　あるのるを引小里　玉之

種柳やゝあらを発る南分見　うね芝

けもあるよ杉と紅ある吟柳氏　玄子

ゝ山やゝ人の苦よ杜ゝ　正令

見書の岸さゝ芋やゝ尾を吹　湯沙



乙負
貝谷
李関
川丈
宇智
尺角
皆及
卜文
京丸

玉之
東雲
玉英
源治
太楊
鶴堂
木亟
堂居
玄子

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』 請求記号 863-147イ
ガラス使用

[illegible]　　和之
[illegible]　　言英
[illegible]　　吐雲
[illegible]　　不村
[illegible]　　存山
[illegible]　　古象
[illegible]　　旋男
[illegible]　　文北
[illegible]　　朽徑

有あらき春や　巻雲　題雲
二百十日　新の夕阪ふきよりの　正令
禁ずれば来の業変りみぞれ　晩也
山うつも年貢の済て秋の月　志兼
吹風の勢ひ見る木の葉哉　紫久
牡丹見や　あるはいはんと言る碎　うね之
芋の虎や　[illegible]　今甫
[illegible]　南陵
月芋や　屠蘇す山の見へ初る　山水

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ
ガラス使用

清かふき一重の砌より佳夕
迫りけり蓮まもる窓そこなん 彌九
暗りけり清く度さ秋の月 雄嵩
春柳也屋うち清きを仮寝 素定
松下木冠さる菴の書机 石龍
苔の音の羽織を乗せるふ むつ
小六月黒木の城もさいちれ うん
なのうけのいよ〳〵変色の作 雪風
大音のこうさきそこも枕小舟 家曉

清雨多也常の戸ひらく八文字 ふ村
多清る新の鄭也 秋の風 友之
沙弥人の清する聖山 之仙
端媚の次る寺の鶯の音 象雅
山姿姿の色ひらく柳も 湖柁
寺警のきくふるる景物 宇喬
沙弥也 学園の山の児 宵丈
少人の帯ほどゆる清く ふ
妙也 弘きる業柳葉 二万
姫孫

[illegible] 太橋
[illegible] 玄子
[illegible] 汀龍
[illegible] 凌渺
[illegible] 春醪
[illegible] 乙貞
[illegible] 古翠
[illegible] 正令

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』　請求記号 863-147イ

ガラス使用

863
147

14238

研のめくらをあひむかへ料のえ彫うれて
置郵ゝ〳〵て命をうけるうり走
ちらんことを新井の孫兵衛
ゆめ〳〵けるぬ

馬川のうま皆原宮の小屋にて
狗川のうまあるうん

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』 請求記号 863-147イ
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あみたかさ』 請求記号 863-147イ

ガラス使用